



TITLE:

新設医大就任雑感(随想)

AUTHOR(S):

栗田, 孝

CITATION:

栗田, 孝. 新設医大就任雑感(随想). 泌尿器科紀要 1976, 22(5): 445-445

ISSUE DATE:

1976-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/121980>

RIGHT:

随 想

新 設 医 大 就 任 雑 感

栗 田

孝*

生来、何事もまあ何とかなるやろという気持で過ごしてきたので、随想を頼まれても気軽に引き受けてしまったがいざ書こうとすると何も出てこないのには困った。苦しまぎれに書きなぐったものだからこれから先はお読みにならないほうが有益です。だいたい医学の道を選んだころに高邁な理想を掲げていたわけではなく、身過ぎ世過ぎの手段としては格好がつかだらうぐらいであったし、まして泌尿器科に進んだのも別にやましいところはないが、公言をはばかるようなよいかげんなものであった。いまさらこの性質をどうしようという気はないが、ときには立場上困惑することがある。新設医大はどうだといわれたとき前後の見境もなく自分ながら簡単に受けてしまったのもこれも生来のなせる業で、まあ何とか試行錯誤をくり返し、何となく過ごしている状態、もちろん他人さまから見れば何と不謹慎なお叱りをこうむるやも知れぬ。こちらに移ってから生れて始めて受験生の面接に駆り出され、もっともらしくなゆえ医学に志さんとするや等質問せねばならない破目に陥っている。かれらはひと昔前のかの不真面目な受験生と異なり実に立派な動機と抱負を弁じてくれるので嬉しくもあり馬鹿馬鹿しくもなる。わが身に比べ将来高潔な国手が大量に生れるはずで医学の進歩は瞠目して待たれ、僻地の無医村はたちまち解消し功利にとられることなく身を賭して働く医者は巷にあふれ、現代医学の手を挙げた難病も東洋医学の摩訶不思議な力で霧散するらしい。そのためか新設医大はおしなべて辺境の地にあり、かれらに迎合したのだろうか。特別穿鑿するほど暇を持て余しているわけではないが、当大学も例に洩れず大阪府下とはいえつい先日まで草深く狐狸の棲家であった所にある。昨今の無節操な住宅侵犯は様相を日毎に変えてはいるがまだ空は青い。教室の窓から府下最高峰と称

する金剛がよく見える。わずか1,000余米だが冬には霧氷を見ようと登る者がおしかけるそうである。先日甘言に誘われてまあ何とかなると、のこのこと猛暑の中を出かけてみた。日頃の不節制がたたって心身ともに氣息えんえんとなりこんな馬鹿は二度としないと深く反省したが頂上にたどり着くと驚いたことに登山回数は登録されることになっており多額納税者ならぬ頻回登山者は祭礼のように張り出されている。はなはだしきは1,000回を越える人物もおり河内人はひま人が多いと感心した。山があるから登るとは有名な高言だがいわば目的がないのだから意味があるので回数の多きを誇るなどおぞましき限りだ。こんなことはおのれ自身の喜びとして秘めているこそ奥床しいものだ。それでも老人たちが喜々として1日に2回も登り降りしているのをみているといらざる干渉かもしれない。自己顯示はかかる場所でもいかに露されておき、広報が死命を制す現代であるのだから現代的風潮としては認せねばなるまい。同じようなものでわれわれのごとき新参者は奥床しく澄まして控えているわけにはいかない。それで乏しい財布をはたいては、厚顔にもいろいろお祭りに境内に名札を出させてもらっている開設以来一年有余、各位のご指導ご協力の甲斐あって少しずつ教室も形を成してきたのでかの理想高き学生たちの教育にもどうやら間に合うようすではある。そうはいっても1,000回も同じ山に登ったほどの先達には程遠い駆け出しだからどうしてもまだ土台が弱い。常々大学の使命は教育と研究であり、その基礎にはいかに地域社会から支持された診療があるかによって律せられるものと考えている。だから毎日進歩的住民運動型拝金主義者と第三世界的成金型拝金主義者のほしくも悩み多き宿痾をせつせとこなし、これも1回の登山になると心得、この先もまあ何とかなるやろと達観している。

* 近畿大学教授（泌尿器科学）